

技術士第一次試験対策分科会より

有資格者増強委員会 第一次試験対策委員会

委員長 齊藤 礼 位 (技術士・建設部門、農業部門)
幹事 中山 亮 (技術士・環境部門、建設部門、総合技術監理部門)

第一次試験対策分科会は、平成 12 年に技術士法が一部改正となり、第二次試験の受験資格として第一次試験の合格が義務づけられたことから、第一次試験に対する講習会開催の要望が高まり、平成 14 年度より、年 1 回の講習会開催を中心に 5 年間活動を行いました。

開講当初は、それまで実務経験のみで受験資格が得られていた中堅技術者を中心に、また、第一次試験対策の参考文献が少なかったことも相まって、想定人数を大きく上回る 200 名以上の受講申し込みがあり、会場の都合上、お断りせざるを得ない状況もありました。その後、多数の問題集や参考書の発刊、インターネットによる配信など、受験者が多くの情報を得られる環境になったことや、試験問題が択一式であること、平成 15 年度・16 年度の合格率が 50% 程度に達したことなどにより、受講者数がここ 2 年間は半減し、今年度は 88 名の参加となりました。

講習会は、道内受験者数の多い 5 部門(建設部門、上下水道部門、農業部門、応用理学部門、環境部門)を対象に実施され、専門科目の多い建設部門ではさらに科目別の専門講師による講習を行いました。技術士法改正以降の第一次試験は、JABEE の認定者と同レベルの技術力を目標に、4 年制理工系大学卒業程度の内容を基本に作成されていますが、この 5 年間の合格率が象徴するように、その難易度にはムラがあり、分科会としましてもその対応に苦慮致しました。講習会受講者の合格率は、開講当初は低い数字でしたが、近年は全国平均に近づくとともに底上げされ、ある程度の成果が得られたものと思っています。

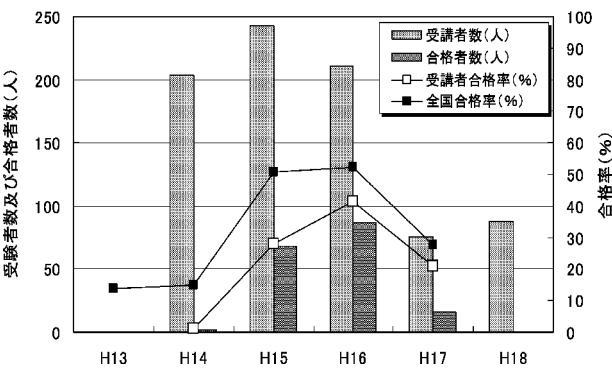
また、個人的な活動という位置づけではありますが、地方講習会への協力、大学での講義など、その時々需要に応じ、柔軟に対応を行って参りました。

第一次試験は、広い分野での知識が必要で択一式という出題方式から、実際には一個人では対応が難しく、一つの組織の中で協力し合い、このような対応が計られたことは、委員会活動の一環として有意義なものであったと思います。残念ながら今後、このような形での協力は難しいと思われます。関係各位には、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

本稿が掲載される頃には、今年度の第一次試験合格者が発表されており、分科会主催の最後の講習会受講者から、多くの合格者が輩出されていることを願いたいと思います。

なお、第一次試験受験講習会開催に際し、講師および演習問題作成でご協力をいただいた多くの方々、並びに、第 1 回開講時より講習会資料の校正・編集・製本等をはじめ随所で多大なるご協力を賜った(株)ドーコンの江川さんには、この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。

(文責：分科会委員長 齊藤 礼位)



第 1 次試験受験講習会の状況

注) 全国合格率は対受験者合格率で、既に技術士資格を有して受験した合格者数も含む